学校だより 第422号 令和5年 7月号

## 牧小だより



子供のよさを見つけ、引き出し、つないで拓く



↑行事写真を ご覧いただけます

## ■学校のアフターコロナ

6月の児童集会の様子を紹介します。コロナの5類移行を受け、音楽集会を再開し、児童集会も再開 しています。参集での音楽集会を知らない子供たちが過半数という中の再開、児童集会も同様で子供の 委員会が発表を準備して全校に伝える場の再開です。今回は「人権こころの花キャンペーン」の6回目、 保健委員会と各学年の人権委員とのコラボの取り組みについての提案でした。先日までの歯科衛生士に よる歯磨き教室の内容とリンクさせ、クイズ形式で「ピカピカの歯と口になろう」キャンペーンについ て説明しました。保健委員会の委員は4人で、一人一人が説明やパソコンの操作の一役を担って発表し ました。少ない委員会活動の時間を利用して準備したのでしょう、堂々と発表しました。興味をもてる ようにクイズ形式を使って話を展開すること、聞き取りやすい話の間を取ることなど、4人は この機会を通して知らずと力を身に付けたと思います。また、聞き手にとっては学級という母体ではな い仲間の話を聞く機会となりました。音楽集会も児童集会も以前までは当たり前に行っていた活動で す。コロナ感染防止対応として一旦途切れてしまい、子供たちには見聞きしたことによる経験値があり ません。人前で発表する経験は緊張や失敗したらどうしようという不安もあるでしょうが、経験を積み 重ねることで緊張や不安を軽減できるのではないかと考えます。小学校時代に様々な機会に人前で話す 経験を積み重ね、慣れさせたいと思います。児童集会の朝、子供たちの発表の様子やクイズに答える様 子を見ながら、わたしにはアフターコロナを実感する時間となりました。様々に我慢を強いられて過ご したコロナ禍で積み上げられなかったことは、コロナの5類移行になったとは言え簡単には取り戻すこ とはできません。少しでも早くと焦る気持ちもありますが、児童集会の子供たちの姿から少しずつ一つ ずつ取り戻していけばよいと回答されたように感じて過ごしています。

## ■民生児童委員・人権擁護委員と語る会

関係の方々に来校いただき、子供たちの学習活動の様子を見ていただきながら、学校の教育活動にご助言をいただきました。この会では久しぶりとなった授業参観後には、外国語活動やタブレットを使った学習活動についての感想もいただきました。整った環境で学ぶことができること、子供たちや学校が多くの方に見守っていただいていることを当たり前と思わず、感謝して臨みたいと感じました。

## ■2023年度は牧小学校創立150周年 その⑩

5月27日に運動場から飛ばした580個の風船は、その後、子供たちを新しい世界とつないでくれました。豊田市の大野瀬町、浜松市天竜区、長野県下伊那郡の方とです。豊田市では、飼育している名古屋コーチンの足元に落ちているのを見つけてくださり、メッセージカードの学校名からホームページを検索され、150周年行事でバルーンリリースしたことを知ってメールと手紙を送ってくださいました。3年生の子供がリリースした風船だったことが分かり、3年生全員で手紙を書いて送りました。浜松市では、同じく150周年を迎えている小学校6年生と母親が散歩の途中に見つけ、通学している学校の校長に届けて連絡を受けました。先方の校長もこの縁をつなぎたいと言ってくださり、今後、計画したいと考えています。下伊那郡では、大きな滝のそばで見つけられたようで滝の写真と一緒に手紙を送ってくださいました。手紙にはお祝いの言葉以外にご住所はなかったため、お礼の気持ちとともにホームページに掲載しました。

150年前から引き継がれた牧のみなさんからのバトンが子供たちにつながり、151年目につながることをお祝いし応援してくださるかのような出来事だと感じます。インターネット上の顔の見えない人とつながりをもつことの危険を心配する現在、顔が見えないことは同じですが、こんなにも偶然で奇跡のようなつながりを大事にしたいと思います。 校長 古市諭香